

# 第5回 長臨技Webセミナー Q&A (1)

質問1. 患者検体を測定した際、コリンエステラーゼや尿酸などが0になった場合、遺伝性などで正しい値かもしくは機械や手技の問題かをどう判断していますか。

そのような事例が発生した際は、「添加回収試験」を行うのが有用かと思います。添加回収試験では、分析の正確さを確認することができます。添加回収試験とは、分析において、目的とする成分が共存する他成分に影響を受けず、特異的に分析されているかを調べる方法です。この試験は、被検血清に目的成分の純品(今回ですとChEや尿酸の標準物質を添加してあげるべき)を一定量添加し、この量が正確に定量されているか調べます。回収率は $100 \pm 5\%$ 以内が望ましいです。この回収率が悪いようなら機械や手技に問題がある可能性を考えます。

$$\text{回収率(\%)} = ((\text{添加試料測定値} - \text{無添加試料測定値}) / \text{添加量(理論値)}) \times 100$$

## 第5回 長臨技Webセミナー Q&A (2)

質問2. 乳ビの対策で、高速遠心で乳ビ除去後の検体でTG以外で変動する項目はありますか。

TG以外は変動する項目はないかと思えます。

質問3. 提出されたEDTA-2kで測定できる生化学項目とか検討されていれば、ご教示頂けると幸いです。

検討した事がないので、生のデータがないのでどの項目がどのくらい影響受けるかは分かりません。

生化学検査における影響

低値となる項目: ALP、Mg、LAP、Fe、Ca、AMY

高値となる項目: Na、K